

東京ガス株式会社 2004年度第3四半期決算説明会

2005年2月2日

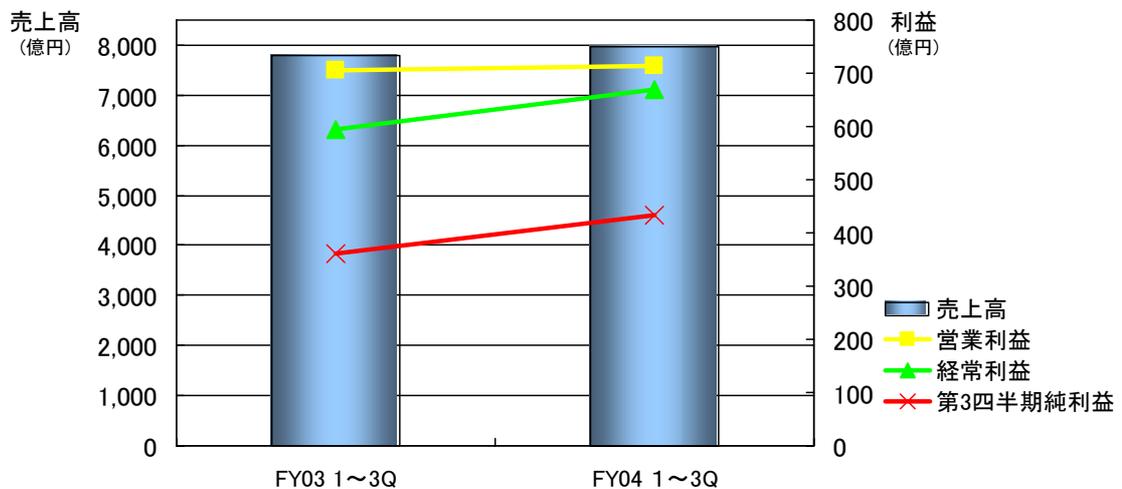
このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動ならびに天候の異変等があります。

第3四半期決算総括

(億円未満切捨て)

	FY03 1~3Q	FY04 1~3Q	増減	連結範囲 拡大の影響*
売上高	7,790	7,962	+172(+2.2%)	+271
営業利益	705	715	+10(+1.5%)	+9
経常利益	595	669	+74(+12.5%)	+5
第3四半期純利益	361	434	+73(+20.1%)	-4

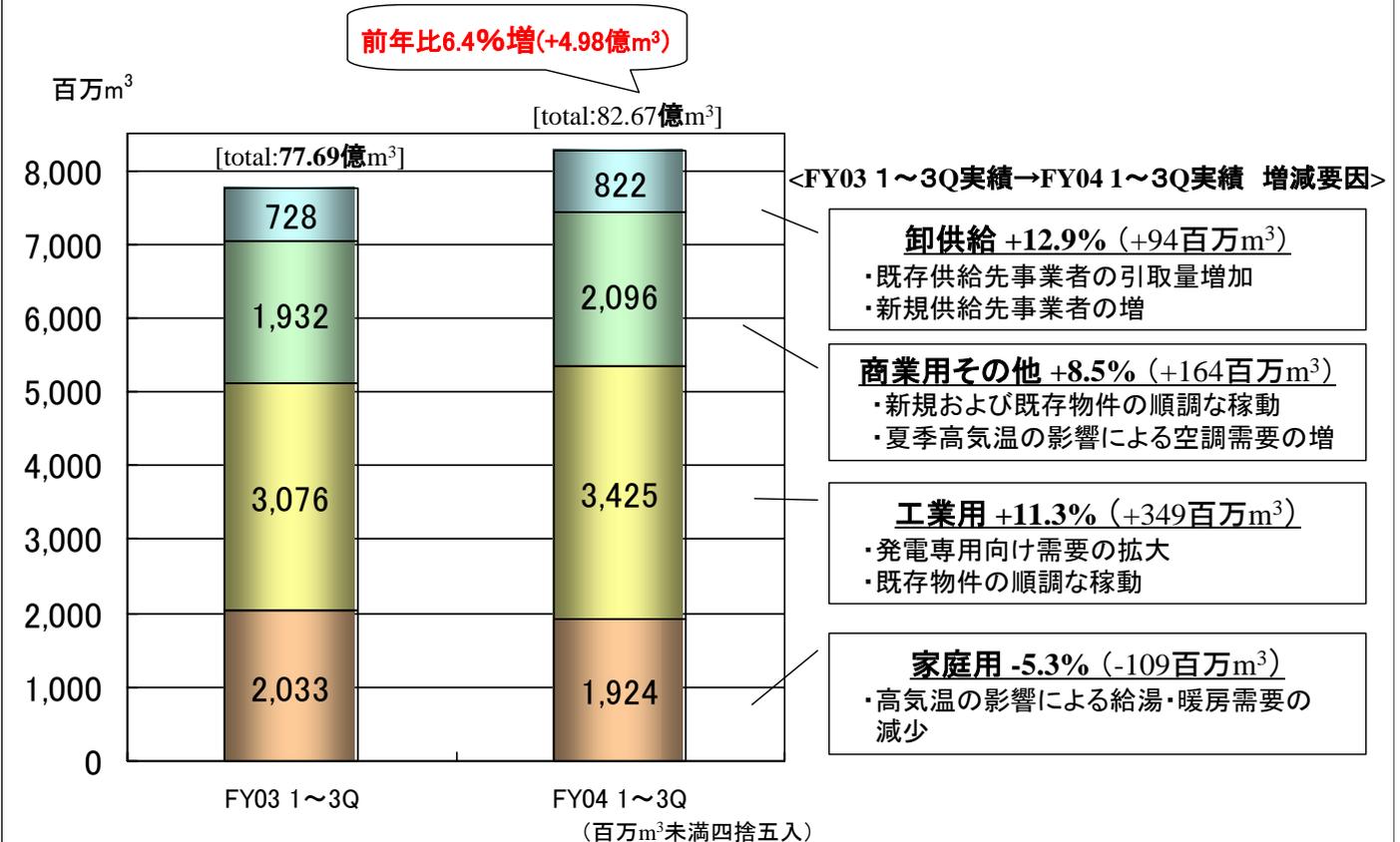
*従来の連結範囲で連結決算を行った場合との比較(04年度より連結範囲を18社→53社へ拡大)



1

- ・本第3四半期は、気温が高く推移したことにより家庭用需要が伸び悩み、ガス売上高が減少したものの、コストダウンのさらなる推進、および本年度より連結範囲を拡大したことにより、対前年同期比で増収増益となりました。
- ・売上高は対前期比172億円、2.2%増の7,962億円となりました。
- ・営業利益は10億円、1.5%増の715億円となりました。
- ・経常利益は74億円、12.5%増の669億円であります。
- ・四半期純利益は73億円、20.1%増の434億円となりました。

ガス販売量実績(連結)



- ・第3四半期までのガス販売量は、対前年比4億98百万m³、6.4%増の82億67百万 m³となりました。
- ・家庭用は、気温が高く推移した影響による給湯・暖房需要の減少が、新しいお客さまの獲得による増量を上回り、前年比1億9百万m³、5.3%減の19億24百万m³となりました。
- ・工業用は、発電事業用需要が対前年で2億15百万m³、17.7%増加したことに加え、新規および既存物件の順調な稼働等により、前年比3億49百万m³、11.3%増の34億25百万m³でした。
- ・商業用その他は、新規・既存物件の順調な稼働により、対前年で1億64百万m³、8.5%増の20億96百万m³となりました。
- ・卸供給については既存事業者の引き取り量の増加に加え、新規の供給先事業者の増加により前年比94百万m³、12.9%増の8億22百万m³となりました。

2004年度通期見通しのポイント

◆ 対中間決算時(10/28)見通し比 減収減益

- ・高気温の影響によるガス売上高の減少
- ・1/1料金引下げに伴うガス売上高の減少

※対前期比 増収増益

- ・連結範囲拡大の影響による売上高増
- ・前期特別損失の影響(退職給付数理差異一括処理、減損会計早期適用)

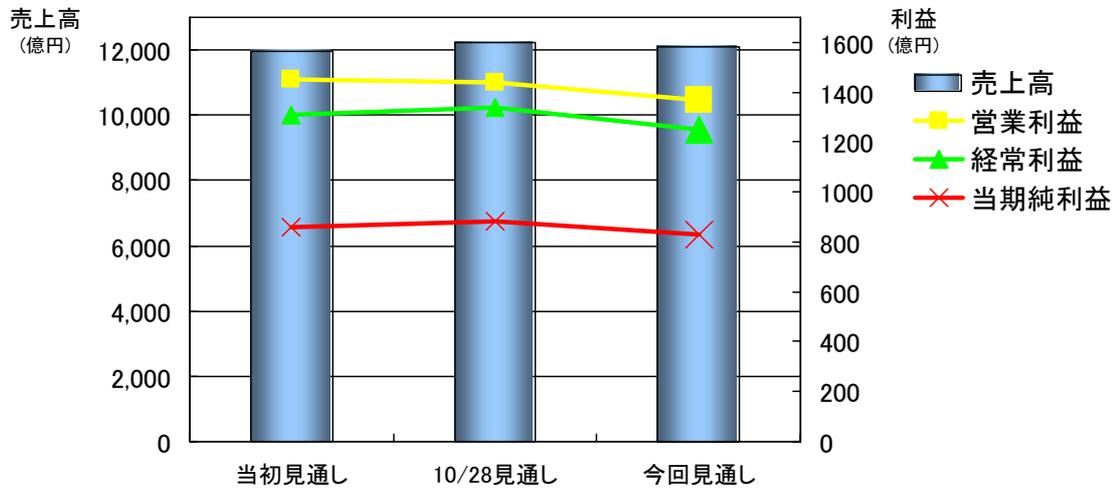
3

- ・高気温の影響によるガス売上高の減少および本年1月1日より実施した料金引き下げにより中間決算時の見通しと比べて減収減益になりますが、前年との比較においては連結範囲の拡大等の理由で増収増益となります。

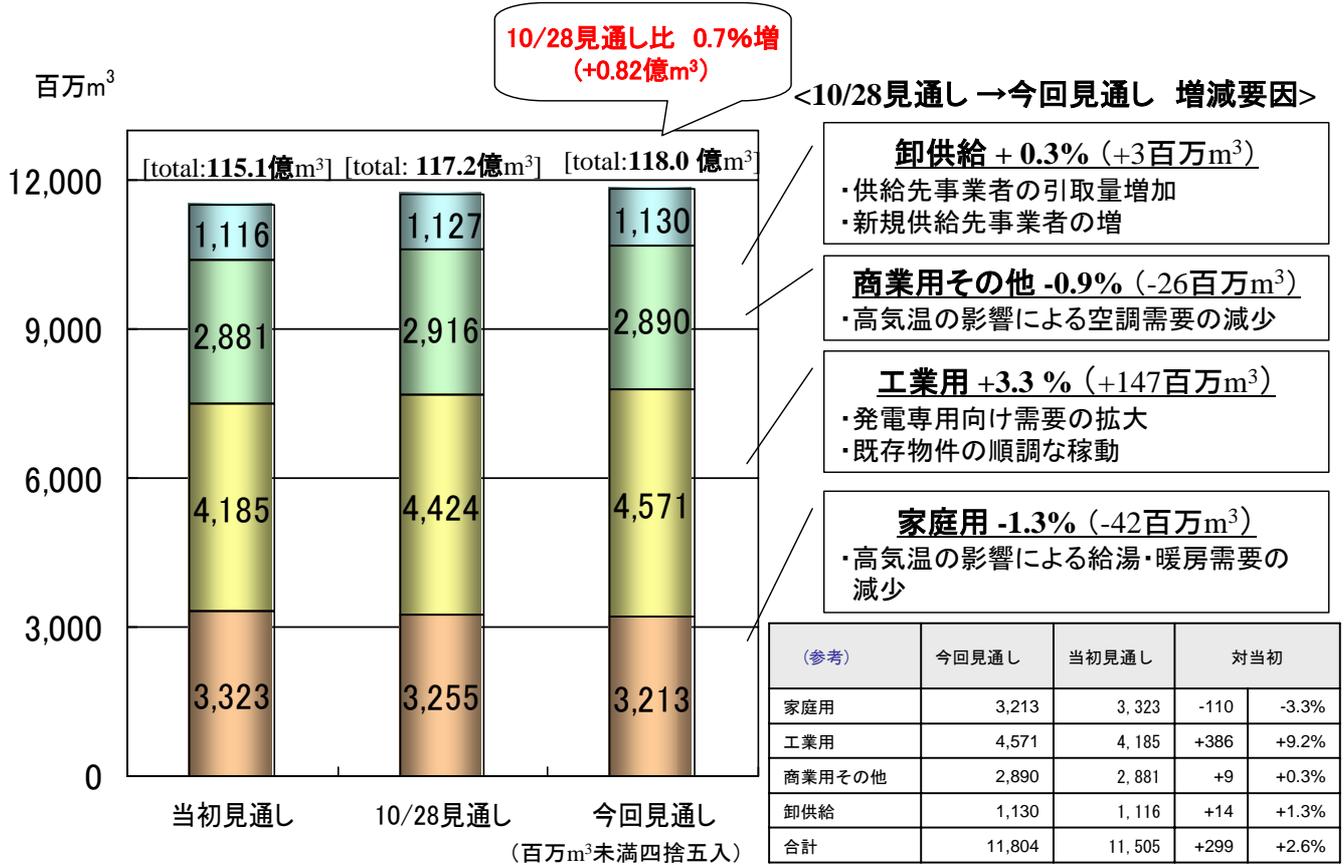
通期見通し(対見通し)

(億円未満切捨て)

	当初見通し	10/28見通し	FY04 今回見通し	対当初	対10/28
売上高	11,970	12,210	12,090	+120(+1.0%)	-120(-1.0%)
営業利益	1,450	1,440	1,370	-80(-5.5%)	-70(-4.9%)
経常利益	1,310	1,340	1,250	-60(-4.6%)	-90(-6.7%)
当期純利益	860	880	830	-30(-3.5%)	-50(-5.7%)
為替(円/\$)	110.00	109.90	107.64	-2.36	-2.26
原油(\$/bbl)	30.00	37.37	38.01	+8.01	+0.64



ガス販売量見通し (連結・対見通し)



5

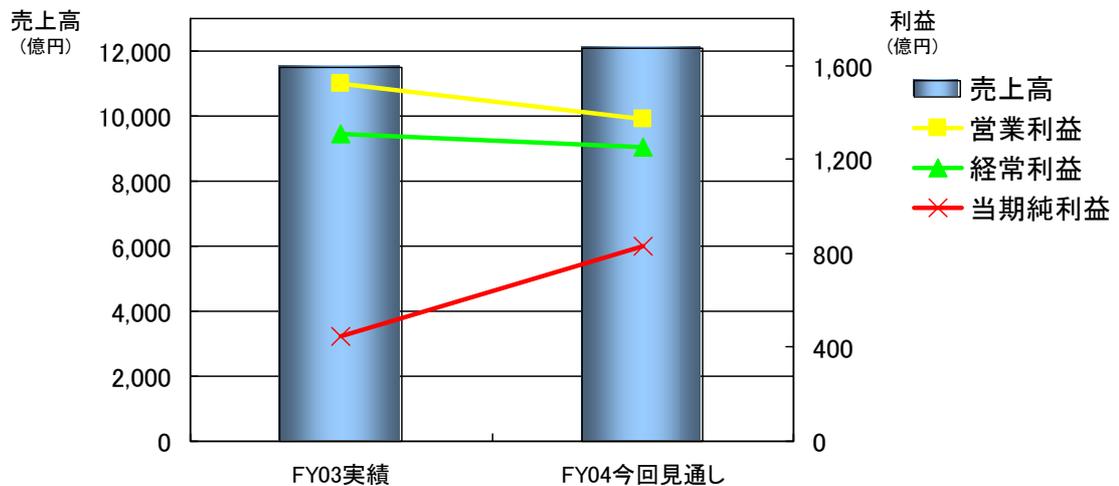
- ・中間決算時点の見通しと比べ、ガス販売量全体では、82百万m³、0.7%増の118億m³と見通しております。
- ・当初見通しとの比較を右下の表に示しております。

通期見通し(対前年実績)

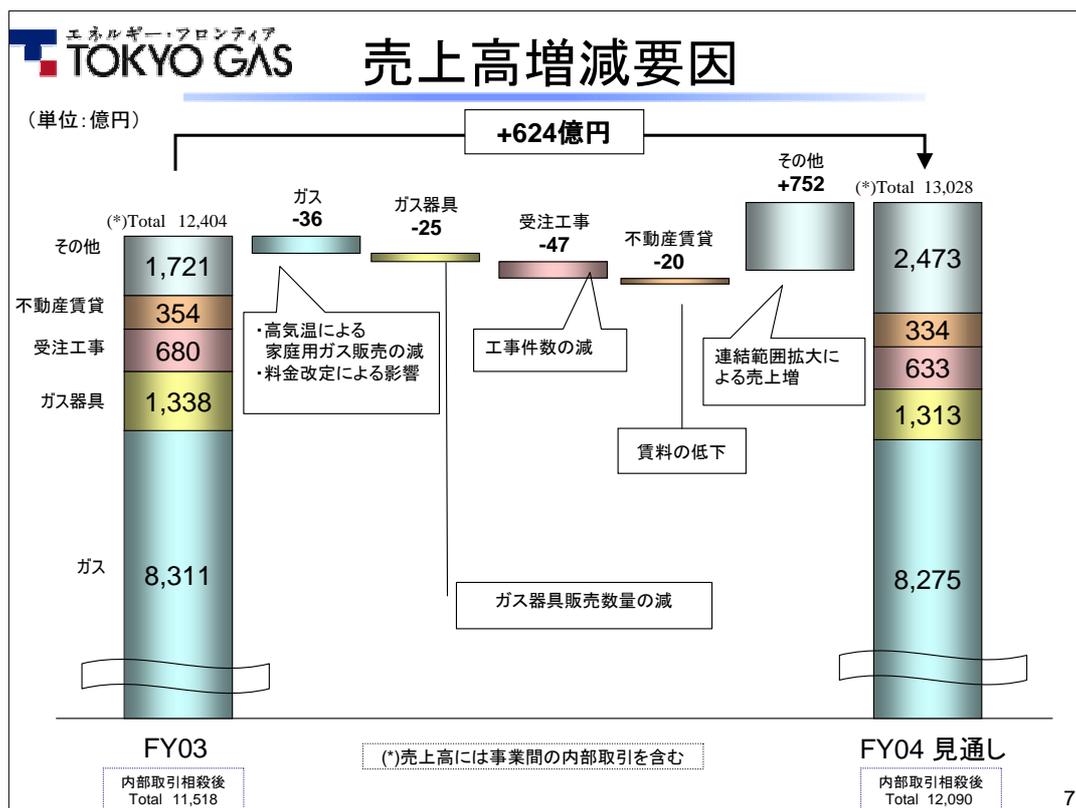
(億円未満切捨て)

	FY03実績	FY04 今回見通し	増減	連結範囲 拡大の影響*
売上高	11,518	12,090	+572(+5.0%)	+600
営業利益	1,522	1,370	-152(-10.0%)	+30
経常利益	1,310	1,250	-60(-4.6%)	+30
当期純利益	447	830	+383(+85.3%)	+20
為替(円/\$)	113.19	107.64	-5.55	—
原油(\$/bbl)	29.43	38.01	+8.58	—

* 従来の連結範囲で連結決算を行った場合との比較(04年度より連結範囲を18社→53社へ拡大)



・前年実績との比較においては、増収増益となる見込みです。



◆セグメント別売上高見通し対前期増減要因

- ・ガス売上高は対前期比で36億円、0.4%減の8,275億円を見込んでおります。

この減少の主な要因は、高気温の影響により家庭用ガス販売量が減少したことおよび、本年1月1日より実施した料金改定によるものです。

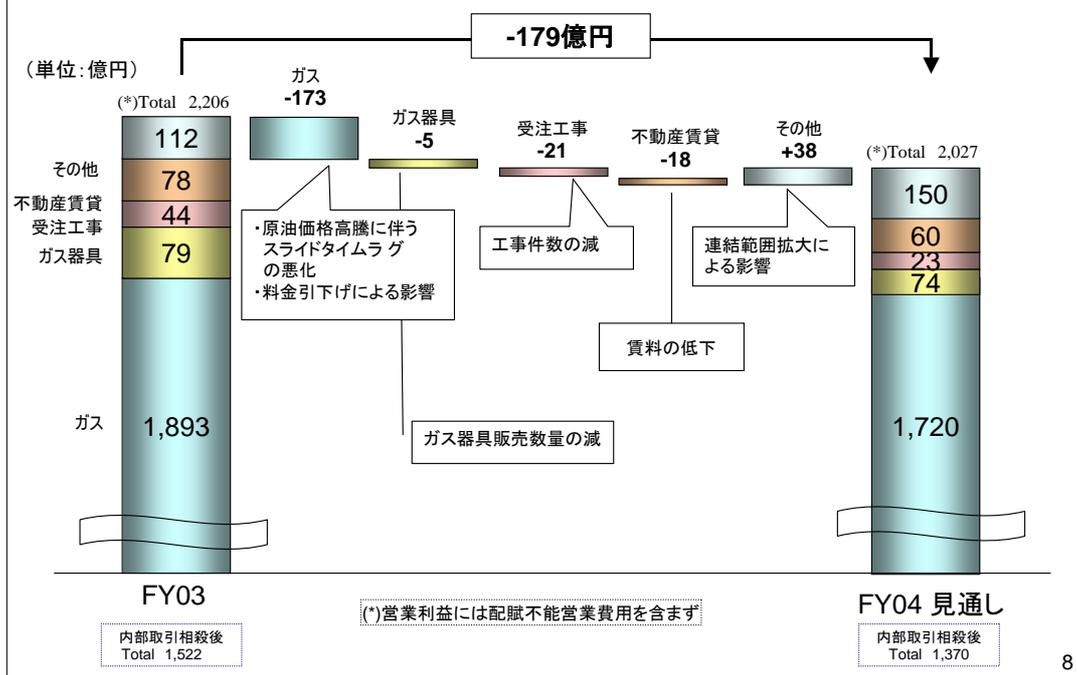
- ・ガス器具部門については、器具の販売数量の減少により、25億円、1.9%減の1,313億円を見込んでおります。

- ・受注工事については、工事件数の減少等により47億円、6.9%減の633億円の見通しです。

- ・不動産賃貸については、賃貸料の引き下げにより20億円5.6%減の334億円を見込んでおります。

- ・その他部門につきましては、連結範囲を拡大したことなどにより、752億円、43.7%増の2,473億円の見通しです。

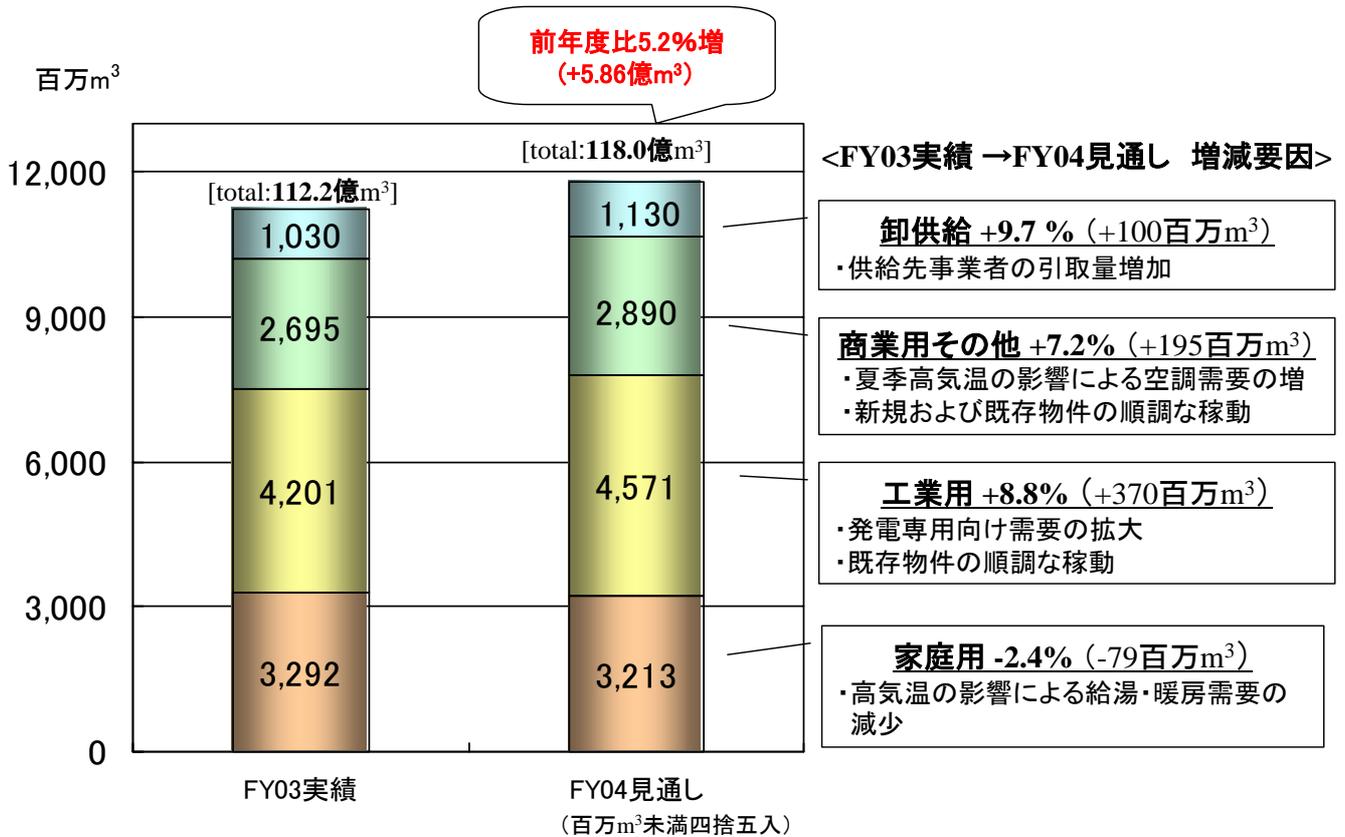
営業利益増減要因



◆セグメント別営業利益見通し対前期増減要因

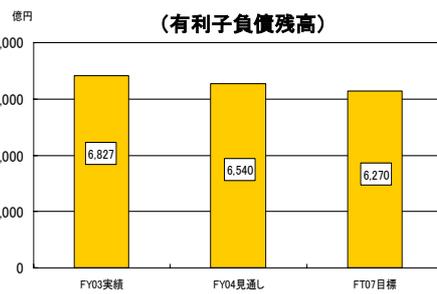
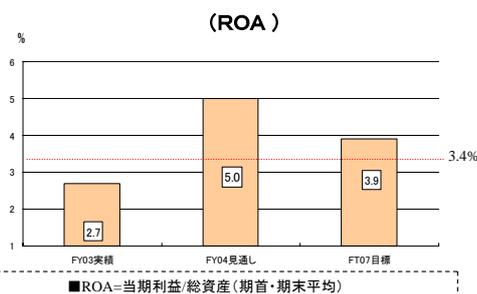
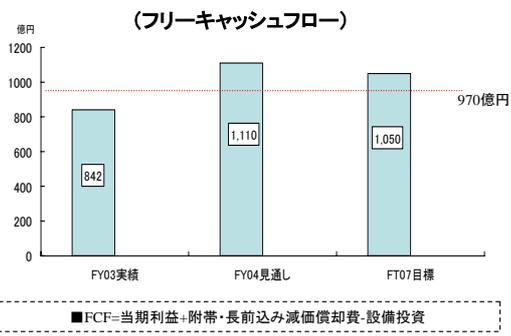
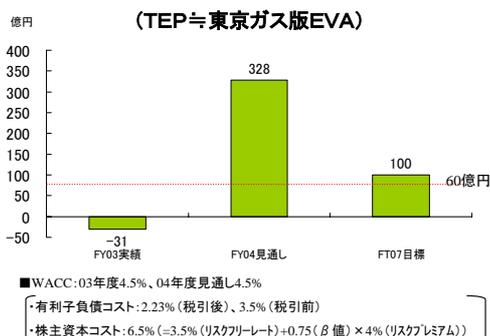
- ・ガス部門は対前期比で173億円、9.1%減の1,720億円を見込んでおります。
この減少は主に原料費の高騰に伴うスライドタイムラグの悪化および料金引き下げによるものです。
- ・ガス器具部門については、器具の販売数量の減少により、5億円、6.3%減の74億円を見込んでおります。
- ・受注工事部門は工事件数の減少により21億円、47.7%減の23億円となる見通しです。
- ・不動産賃貸についても、賃料の低下により18億円、23.1%減少の60億円を見込んでおります。
- ・その他のセグメントについては、本年度より連結範囲を拡大したことなどにより、38億円、33.9%増の150億円となる見通しです。

ガス販売量見通し(連結・対前年実績)



- ・今年度のガス販売量は、前期に比べ、家庭用では高気温の影響で減少するものの、その他のセグメントにおいては増加し、ガス販売量全体では、5億86百万m³、5.2%増の118億m³と見通しております。

エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS 主要経営目標の見通し



※04年度より連結子会社数を18社→53社へ変更

※ 赤線はフロンティア2007で掲げた5カ年平均目標

- ・東京ガス版EVAである「TEP」、「フリーキャッシュフロー」、「ROA」、「有利子負債残高」ですが、中間決算時点での見通しと比べ、「TEP」および「ROA」は当期純利益の下方修正に伴い減少しますが、「フリーキャッシュフロー」および「有利子負債残高」に関しては、変更してありません。
- ・いずれの指標も前年度の実績を上回り、かつ有利子負債以外の3つの目標におきましては、各グラフの右端にある計画の最終年度である2007年度の数値も上回る見通しです

主要計数表

主要計数表(通期-①)

(億円)

	FY03 実績	当初 見通し	10/28 見通し	FY04 今回見通し	対前年	対当初	対 10/28
売上高	11,518	11,970	12,210	12,090	+5.0%	+1.0%	-1.0%
ガス売上高	8,311	8,260	8,395	8,275	-0.4%	+0.2%	-1.4%
営業利益	1,522	1,450	1,440	1,370	-10.0%	-5.5%	-4.9%
経常利益	1,310	1,310	1,340	1,250	-4.6%	-4.6%	-6.7%
純利益	447	860	880	830	+85.3%	-3.5%	-5.7%
TEP(億円)	-31	346	384	328	+359	-18	-56
ガス販売量(百万m ³)	11,218	11,505	11,722	11,804	+5.2%	+2.6%	+0.7%
為替(円/US\$)	113.19	110.00	109.90	107.64	-5.55	-2.36	-2.26
原油(\$/bbl)	29.43	30.00	37.37	38.01	+8.58	+8.01	+0.64
気温(°C)	16.3	16.8	17.2	17.2	+0.9	+0.4	±0.0

主要計数表(通期-②)

(億円)

	FY03 実績	当初 見通し	10/28 見通し	FY04 今回見通し	対前年	対当初	対10/28
総資産(a)	16,668	16,770	16,370	16,320	-2.1%	-2.7%	-0.3%
株主資本(b)	5,984	6,440	6,440	6,390	+6.8%	-0.8%	-0.8%
株主資本比率(b)/(a)	35.9%	38.4%	39.3%	39.2%	+3.3%	+0.8%	-0.1%
有利子負債残高	6,827	6,790	6,540	6,540	-287	-250	±0
利益キャッシュフロー(c)	447	860	880	830	+85.3%	-3.5%	-5.7%
投資キャッシュフロー (d)=(f)-(e)	394	160	230	280	-29.0%	+75.0%	+21.7%
設備投資(e)	1,074	1,263	1,200	1,150	+7.0%	-8.9%	-4.2%
減価償却(f)	1,468	1,423	1,430	1,430	-2.7%	+0.5%	±0%
フリーキャッシュフロー (c)+(d)	842	1,020	1,110	1,110	+31.8%	+8.8%	±0%
ROA : (c) / (a)	2.7%	5.1%	5.3%	5.0%	+2.3%	-0.1%	-0.3%
ROE: (c) / (b)	7.6%	13.8%	14.2%	13.4%	+5.8%	-0.4%	-0.8%
EPS(円)	16.44	31.81	33.17	31.29	+14.85	-0.52	-1.88

(注) ROA=当期純利益/総資産(期首・期末平均), ROE=当期純利益/株主資本(期首・期末平均)
 EPSの分母は期中平均株数
 フリーキャッシュフロー=[利益キャッシュフロー-(当期純利益)]+[投資キャッシュフロー-[(減価償却費)-(設備投資)]

13